

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 121 号
2022年 6月



シロヤシオの森を歩いて(第 182 回野手上山シロヤシオの森観察会) 岸波良子

シロヤシオ?と言われてもピンときませんがゴヨウツツジと言われると愛子様のお印で納得できました。実際に見て、黄緑色で初々しい葉っぱが赤みがかかった縁取りがされていて、花は純白。まさしく愛子様のお印(樹木?草木?)にふさわしいな~ という印象でした。歩けば歩くほど茂っていてまさしくシロヤシオの森でした。今回ほどシロヤシオ別名ゴヨウツツジを身近に見たことがありませんでしたから、感動でした。今回の散策のメインがシロヤシオではありませんでしたが、歩く先々で幾重にもかわいらしい草花に出会い、山の香りに包まれ、気持ちよくて足取りも軽かったです。何度も観察会に参加させていただいているのに、花の名前を覚えきれず、メモしても頭の中に入ったものの数は希少です。それならば今回は一つだけ!と決めて臨んだ今回の観察会でもありました。シロヤシオ別名ゴヨウツツジについて興味が沸き、私なりに感動して調べたくなり感想文というよりは感動文として投稿したいと思います。

そもそもお印とは皇室の方々のシンボルマークで、生まれた時から(民間からお嫁入れされた美智子上皇后と雅子皇后は結婚されてから)一人一人の品々を区別するマークです。皇室典範で定められたものではなく、あくまでも慣例となっているようです。なにより皇室で働く人たちが名前や称号を書くことが畏れ多いと考えたことから代わりに使われるようになったともいわれています。



さあ出発



ギンリョウソウを撮影

特にボンボニエールという砂糖菓子を入れる器にデザインし皇室の慶事の際のお引き出物として配られることが有名です。起源は江戸時代の後期、光格天皇(1771年～1840年)のお子様たちが用いたのがはじまりではないかといわれていて、決め方、デザインは?樹木や花の名前が用いられ、誕生した時にご両親がほぼ決めているようです。一般家庭から皇室に入られた女性は、結婚を機に夫婦で決めるようです。

近年の皇室の方々のお印を一覧してみましょう。

- ★上皇陛下……………榮(エイ)(別名「桐」) キリ属の落葉広葉樹
- ☆上皇后美智子さま…白樺(シラカバ) カバノキ科カバノキ属の落葉樹
- ★天皇陛下……………梓(アズサ) ノウゼンカズラ科落葉高木
- ☆皇后雅子さま。……ハマナス バラ科バラ属の落葉低木
- ☆愛子さま……………ゴヨウツツジ ツツジ科ツツジ属の落葉樹

他、秋篠官皇室家族は省略。興味ありましたらお調べください。ということからゴヨウツツジがお印となったのには、一般家庭から皇室にお嫁入りされ、困難の末に愛子さまを出産され抱いた時、ゴヨウツツジがお好きなこともあり「純自の花のような純真な心を持った子供に育て欲しい」という陛下と皇后雅子さまが願いを込めてお印として候補に挙げ、決められたようです。



森に流れるオカリナの響き

野手上山を歩いて皇室に思いをはせるなんて思ってもいませんでしたが、今回の鑑賞会で出会ったからこそその発見でした。

力(感動)し・キ(興味)をもって行動し・ク(工夫)しながら・ケ(健康)維持し・コ(交流)する。観察会を通して私達夫婦の「カキクケコ」の目標は十分に達成されています。帰宅後の会話も弾み、スマホを見ながら花の名前を必死に思い出すのも楽しいものです(笑)

足手まといにならない程度に歩きますので会長さんを始めみなさま、更に宜しく願います。



イヌブナとブナが混生



アブラツツジ



野草生活 ラウ リサ

私の小さな庭は、一見雑然としているように見えますが、私にとっては、食べられる沢山の野草や花でいっぱいの、大地の宝物です。自然で、健康的で、おいしい。どこにでもあり、新鮮で、タダです。

朝のよもぎフェイスオイルからスギナ茶、ランチのタンポポサラダからディナーの桑の葉ペーストスパゲッティ、カラスノエンドウスープからセイタカクッキー、パン、ケーキ、プディングまで。自分の味覚に挑戦するために新しいレシピを作るのは刺激的で楽しいことです。



野草パスタ



庭で採取した野草

何をどのように使うかを知ることは、私に自由と自給自足の感覚を与えてくれます。そして最も重要なことは、それが私の気分を高めてくれることです。とても幸せで、ちょっと誇らしい気分です。

写真はこの前作ったパスタです。

野草の香りを楽しむために、味付けはにんにく、オリーブオイル、塩だけです。ご馳走様でした。

第181回自然観察会「早坂山スプリングエフェメラル観察会」に参加して

西川周作



第 181 回早坂山スプリングエフェメラル観察会

べく佐藤守さんの近くで説明に耳を傾け皆さんと同じ土俵に近づける様頑張りました。

早坂山の大きな見所は三ヶ所。すらっと高く聳えたキタコブシが綺麗に咲いており、雪渓とのコントラストは絶景でした。そして昼食予定地点一面に咲くカタクリの花。私の自宅近くの公園にもちょっとしたカタクリスポットがあり、今回観察した花々の中では唯一知識のある花でしたが、これ程までに群生したものは初めて見ました。昼食はカタクリを傷つけぬ様少し進んだ場所で見ましたが、そこには可憐なカタクリとは対照的に西吾妻の雄大な姿が見えました。

そして最後に待っていたのは様々な花が咲き乱れるお花畑。白、紫色のエンゴサク、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、フクジュソウ、どれも私には実物と名前が一致しないものでしたが、里山の麓のなんでもない様な場所にこれだけ美しい世界が広がっていることに感動しました。その他にもオクチョウジザクラ、クサゴケ、綺麗に枝打ちされた杉の植林地帯から自然林地帯への変化、雪渓地帯等、小さな山ですがとても変化に富み見所も多かったです。一週間前の下見では積雪がかなりあったとのことでしたが、その後暖かい日が続く、当日の好天もあいまってスプリングエフェメラルの短い盛りの観察には絶好のタイミングとなりました。準備をして頂いたスタッフの皆様に感謝です。

観察では自分自身の準備不足を痛感しましたが、登山好きの私でも余り経験のない、藪漕ぎしながら里山特有の急登の道無き道を進む経験はとても楽しかったです。

仙台からの参加で皆さんから”遠いところ”と言って頂いたのですが、親が残した家が小野町にあり、頻りに福島へは来ております。これからも参加させて頂くつもりですが、その際は準備を怠らず目的を持って臨みたいと思いますので、ご指導よろしく願い致します。

自然観察員の研修は受けたものの一年以上何の活動もしなかった為、何かきっかけが欲しいと思っており、以前から気になっていたこちらの自然観察会に今回参加させて頂きました。スプリングエフェメラルの内容も特に調べる事なく、これから春本番を迎える里山でそこに咲く花々や木々の芽吹き等を観察するのだろうといったざっくりとした気持ちで臨みました。しかし参加されている方々の知識と観察力の深さにはびっくり。私の知識の無さと生半可な気持ちで参加した事を悔やみました。それでも最初にアドバイス頂いた様になる



キタコブシを背にデブリを渡る



カタクリ畑



早坂山のオトメエンゴサクの色は独特

オトメエンゴサク

(乙女延胡索)

エンゴサクも早春季の植物で、花の色は白色から緑色、ピンク系、ブルー系、紫色等が混ざった色等と多彩だ。葉の形や包葉の違いで、ヤマエンゴサク、ミチノクエンゴサク等が在ります。花の匂いも良く、好きな方も多し。昔は根を乾燥させて、延胡索と言う漢方薬が使われていたと言う。名前はそれに由来する。



ヒメニラ

(姫菫)

名前がニラと言うように、花畑で別の花を撮っていると、ニラの匂いして良く見ると、小さい淡い紅色で至るところに、早春季植物と一緒に咲いている。花の中を覗くと、雄しべのないものが多く、鱗茎で増えるとの事。名前はニラの匂いに由来する。



イワフネタチツボスミレ

(岩船立坪菫)

オオタチツボスミレとナガハシスミレの交雑種。オオタチツボスミレの距は黄色、ナガハシスミレの距は薄紫色である。スミレの交雑種は一年で消滅すると言われていたが、今年も各地で見られた。これは、毎年交雑を繰り返していることを表している。



イカリソウ

(碓草)

4つある花弁は細長い筒状で先が尖る。この形が船の碓に似ているので、それが由来。昔は観賞用として栽培されており、葉、茎、根等は薬草として利用されていた可能性も大であるとの事。福島から南方面は紫色のイカリソウ、北の方面ではキバナイカリソウが咲く。葉はハートの形の小葉が9枚で、一つの葉である。その他、トキワイカリソウ、バイカイカリソウ等がある。それぞれ、葉の形や付き方、花の色が変わる。



ヒメシャガ

(姫射干)

シャガはヒオウギと葉の付き方や、形が似た植物で、シャガは射干と書く。ヒメシャガにこの名前が付けられた事の起こりは、命名者がヒオウギとシャガを勘違いしたことから始まる。もともとヤカンと言う発音だったが、いつの間にかシャカンになり、やがてシャガになり、小さいシャガなのでヒメシャガになったとの事。シャガは白色だが、ヒメシャガは薄紫色で可愛い。



バイカオウレン

(梅花黄蓮)

可愛い花は白梅のようで、葉は5枚の小葉からなる。雪だけに直ぐ芽が出て咲く。オウレンは黄色い根と言う意味。根を切って見ると黄色く、なめてみると苦く、セリバオウレンの根は胃腸薬、下痢止めの主原料として使われ、結膜炎やただれ目、中風等にも薬効があるとの事。セリバオウレンは葉がセリの葉に似る。他に、葉が三枚のミツバオウレンが咲く。



【 ここは河原の坊だけれども 曾てはここに棲んでいた坊さんは 真言か天台かわからない とにかく谷がも少し こっちに寄ってあゝいう 崖もあったのだろう鳥がしきりに啼いている もう登ろう 】

「私が早池峰山に初めて登ったのは1965年8月9日とノートに記してある。夜行列車に乗りバスを乗り継いで、岳には朝8時7分着とある。暑く長い林道をひたすら歩いて河原の坊までたどり着いた。そこに宮沢賢治の“河原の坊”の木製の詩碑が建っていた。恥ずかしながら、宮沢賢治といえば『雨ニモマケズ』しか知らなかった青年の自分は静かな、しかし衝撃的な出会いだった。」

こうして賢治に出会った奥田さんは、賢治の作品に登場する山々を歩き数々の作品と出会い、理解を深めていったとのこと。

令和4年3月23日「ほのぼの絵本会」で高山の原生林を守る会の奥田博さんに「宮沢賢治の描いた仮想世界—賢治の作品に登場する世界の山を歩く—というテーマでお話いただきました。

「ほのぼの絵本会」は小学校等で絵本の読み聞かせを始めて20年程が経ち、たくさんの絵本と出会うなかで、大人だからこそ味わえる絵本があるのではと思います、松川学習センターにて月に1度「大人の絵本会」という場を設けてから3年が経ちました。そこでは2時間程の間に数冊の絵本を味わい、時にはひとり一編ずつ詩を読んだり、また視覚障害のある会員の方に「視覚障害を生きる」という題で話していただいたり、多種多様なプログラムを組んで楽しんでいる会です。

そんななかでのある日、会員の中から奥田さんの“賢治”のお話をお聞きしたいとの声が上がリ、今回ようやく実現することができました。宮沢賢治はあらゆる方面の著名な方々が語っていますが“山”から考えるという視点からはなかったように思います。穏やかな語り口で奥田さんのお人柄がにじみでているようで引き込まれました。参加者たちからは次のような感想が寄せられました。

- ・でくのぼうを求めた賢治の深い宗教性、そして生きとし生けるもの、自然と共存する日本人の内面を思いまし。
- ・神秘的な“賢治”の扉をワクワクドキドキ開けた思いがしました。これからもっとふれていきたいと思います。
- ・若い頃賢治を読んでも難しいばかりでした。年を重ねてゆっくり考えながら読むと、わからないことはあるが納得できることが多い。今日のお話を聞いてますます楽しみたいと思います。
- ・今日のお話を聞いて賢治の幅広い世界観を知ることが出来て興味がわきました。

等々。当日は高山の原生林を守る会の会員の皆様にもたくさん参加していただき、総勢27名とても良い時間を持ったことを感謝申し上げます。奥田さん、本当にありがとうございました。そしてまた違った角度から“宮沢賢治”を語ってくださいますようお願いいたします。

「宮沢賢治の描いた仮想世界」

—賢治の作品に登場する世界の山を歩く—



宮沢賢治の山

■日本の山・イーハトーブ以外

作品に登場する山々の数は、14山である。北海道釧路から三陸山、富士山までである。これは、東西3山に対して南北4山である程度であるが、東側の傾度から見れば、その傾度の存在感ということになる。逆にいえば、その傾度手前、傾斜に対する思い入れが深かったことを裏付けた結果ともいえる。

① 駒ヶ岳	⑥ 北尾山 (山ノ内)
② 三輪山	⑦ 山ノ内 (山ノ内)
③ 三輪山	⑧ 三輪山 (山ノ内)
④ 三輪山	⑨ 三輪山 (山ノ内)
⑤ 三輪山	⑩ 三輪山 (山ノ内)
⑪ 三輪山	⑫ 三輪山 (山ノ内)
⑬ 三輪山	⑭ 三輪山 (山ノ内)
⑮ 三輪山	⑯ 三輪山 (山ノ内)
⑰ 三輪山	⑱ 三輪山 (山ノ内)
⑲ 三輪山	⑳ 三輪山 (山ノ内)
㉑ 三輪山	㉒ 三輪山 (山ノ内)
㉓ 三輪山	㉔ 三輪山 (山ノ内)
㉕ 三輪山	㉖ 三輪山 (山ノ内)
㉗ 三輪山	㉘ 三輪山 (山ノ内)
㉙ 三輪山	㉚ 三輪山 (山ノ内)
㉛ 三輪山	㉜ 三輪山 (山ノ内)
㉝ 三輪山	㉞ 三輪山 (山ノ内)
㉟ 三輪山	㊱ 三輪山 (山ノ内)
㊲ 三輪山	㊳ 三輪山 (山ノ内)
㊴ 三輪山	㊵ 三輪山 (山ノ内)
㊶ 三輪山	㊷ 三輪山 (山ノ内)
㊸ 三輪山	㊹ 三輪山 (山ノ内)
㊺ 三輪山	㊻ 三輪山 (山ノ内)
㊼ 三輪山	㊽ 三輪山 (山ノ内)
㊾ 三輪山	㊿ 三輪山 (山ノ内)

■世界の山

世界の山であるが、賢治の時代に、このような山々の情報をとらえて平に入れたのが平賀だ。平賀と違い、情報は地誌に少なかった時代である。日本探検されずに、英語やドイツ語の地名で地名が書かれていたかも知れない。現代でも情報の空白地帯であるチベットやヒマラヤの山が登場するのは、賢治に遡る。チベットやヒマラヤが多く登場するのは、賢治の探検によるものも少なくない。

イギリスのスノードン山は聖地山といわれるし、そういう賢治でチベットやチベットは雪山山である。私は、1919年にチベットのチベット山を踏破した。その後、天山山脈のチベット、インドのチベット、スノードン山のチベットなどの山々で賢治の山々を踏破した。その際に賢治はもっと他の地方にいた存在だった。



東北ブナ紀行（81）

奥田 博

宮城県のプロナでは、特異なプロナの紹介となります。一つは太平洋の島である金華山。そして阿武隈山地北部、福島・宮城県境の山である手倉山。どちらの山も震災以降は、アクセスに難が生じ、難しくなった不遇の山とも云える。

127) 金華山 444m

定期船が減って、チャーター便に頼ることで、アクセスに少し難が出たが、やむを得ない。震災で歩く方が少なくなったが、環境省・みちのく潮風トレールの整備が行われ歩きやすくなった。

港が登山口で、三年続けて参拝すると金運が開け一生お金に困らないといわれる黄金山神社に参拝。その奥から沢状の道を登る。時折、ブナやケヤキの大木が現れ楽しい。鹿防止ネットが張られているが、鹿の食害は厳しい状況だ。水神社を抜けて尾根に出れば、太平洋の海原が広がる。ブナの尾根を登れば、山頂神社到着となる。

山頂からは一旦戻って、今登ってきたコースの北側の尾根を下るか、山頂から南へ下り、二の御殿跡から西に向かう道は、ブナの森歩きが楽しめよう。

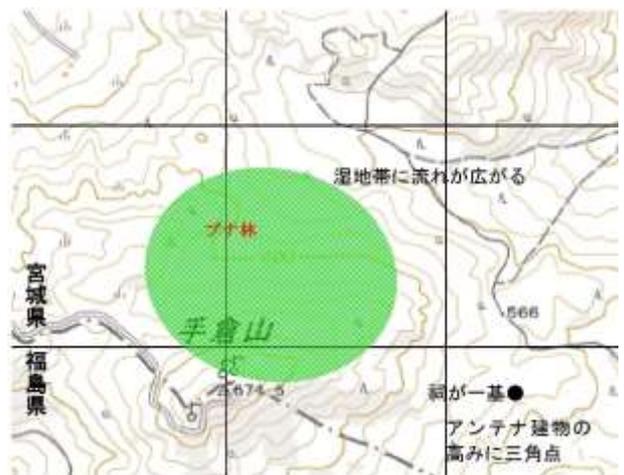
コースタイム：金華山港（15分）黄金山神社（1時間）山頂（北尾根 50分）黄金山神社（10分）港【山頂-南尾根 1時間】



128) 手倉山 675m

手倉山は阿武隈山地の宮城・福島県境にある低い山。登山道は無く、藪の薄い沢筋や尾根を歩くことになる。道標はもちろん、踏み跡すら無いので、上級向けの山かも知れない。道迷いしないための道具は必携。

手倉山頂の北側約22haヘクタールを宮城県は阿武隈溪谷県立自然公園の第1種特別地域に指定した。22haとは500m四方で25haだから少ないこと、この上ない。しかしモミの大木とブナ・イヌブナが自生している貴重な地域で価値は高い。



手倉山には立派なブナ林が広がる

2019年丸森豪雨によって山頂への管理道が壊れてしまい、その管理道を歩くのが、一番近道。丸森・青葉地区から古い林道を辿るコースは3時間、県境の天明山から歩けば5時間。いずれも道標、登山道は無い低いけど遠い山だ。

コースタイム：登山口（1時間）手倉山頂（ブナ林散策 2時間）手倉山頂（50分）

登山口



金華山の尾根に上がれば、ブナと太平洋の眺

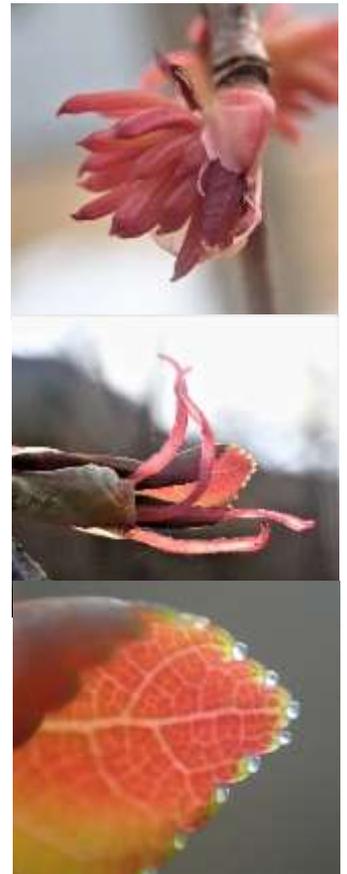
カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* カツラ科カツラ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ林の溪流沿いに植生する落葉広葉樹。雌雄異株で雄株と雌株がある。根の吸水力が強く主幹は直立して旺盛に伸びる。また、ひこばえが発生しやすく、主幹が折損しても、根元から多くのひこばえが伸長するため、株としての寿命が長く大木になりやすい。吾妻連峰でも心材が腐朽して残った樹皮部に囲まれて大きな穴を見せる大株の脇から新しい幹をすくすくと伸ばしている光景に出会うことがある。

葉は対生。葉形は丸みを帯びたハート形で葉の周辺は波状の滑らかな鋸歯で縁どられる。葉脈は葉柄部から中肋の両側に大きな側脈が分かれる。葉柄は赤味を帯びる。展葉間もない葉は赤味を呈する。湿気の多い朝方には鋸歯の間にある水孔から出水現象がみられる。出水した滴は鋸歯の間から真珠のような輝きを放ち、赤い葉身とのコントラストが美しい。秋になると黄葉し、カラメルのような甘い香りを放つ。「香出(かづ)ら」が転訛したのが名の由来と言われる。

花は腋性。がくと花冠は無く、雄花は雄しべのみ、雌花は雌しべのみを着生する。雄花は開裂した冬芽から紅紫色の雄しべを多数覗かせ、花糸が伸びると紅色の葯を風になびかせる。雌花は紅色のリボンのような柱頭を数本突き出す。柱頭の縁には水孔があるのか葉と同様の透明な水玉が並ぶ。

カツラを初めて見た時は、その樹姿に圧倒された。やがて葉の形に安らぎを覚え、ある朝、炎のような柱頭を突き立てた雌花に取りつかれた。秋にカツラの甘い香りに喜び、カツラの記憶が薄れた頃に稚葉の葉縁に並ぶ真珠の輝きに魅せられた。その後、生真面目な葯の形に、自由奔放な雌しべの姿とは違った美しさを感じた。このようにカツラは観察する者を引き付ける魅力にあふれた樹木であるが、鈍感力に優れた私はその魅力に気づくのに長い時間をかけなければならなかった。



バイカオウレン (*Coptis quinquefolia* キンボウゲ科オウレン属)

吾妻・安達太良連峰の亜高山針葉樹林に植生する常緑の多年草。日本固有種。吾妻連峰が北限となっている。吾妻連峰では東吾妻から西吾妻までいずれの山域でもコマツガやオオシラビソの樹林帯に入るとチシマザサに覆われた林床に群落が現れる。似た名前前のミツバオウレンはバイカオウレンより陽射しが当たる稜線に近い場所に多く植生する。別名をゴカヨウオウレンという。学名の種小名は「五枚の葉」を意味することから「五ヶ葉」を連想するが、日本名の方は葉の姿がウコギ(五加木)に似ていることから五加葉黄連とされたというのが真実らしい。

葉は根生葉のみで、長い柄があり、5枚の小葉から成る掌状複葉である。小葉は厚みと光沢があり滑らか。小葉は3中裂し、葉縁には鋭鋸歯がある。

花は頂生花序で、新しい根生葉が出る前に、根茎から花柄を伸ばし、花を咲かせる。白い花弁状のものはがく片であり、外側の主脈が赤味を帯びる。花弁はその内側の黄色いものである。花弁は先端の黄色い杯状の部分とこれを支える基部の細い部分に機能分化しており、前者は舷部(げんぶ)、後者は爪部(そうぶ)と呼ばれる。舷部は蜜腺が発達している。中央に黄緑色の雌しべがあり、その周辺を多数の雄しべが囲んでいる。

残雪深い吾妻連峰に登った。針葉樹林帯に入るとバイカオウレンの群落が連続し、白い花がそこかしこ咲き揃っていた。目的の頂に無事到着し、残雪の登山返しで、もやしのような集団に出会った。よく見るとバイカオウレンの蕾が頭を垂れた姿であった。その姿からバイカオウレンは雪の下で、既に開花の準備を整えており、雪が融けるとすかさず花柄を伸ばして開花することを知った。その生命力の強さに感嘆し、しばらくその場から離れられず見入っていた。



第183回自然観察会案内：デコ平 百貫清水の高原植物観察会

日時：2022年7月3日（日）8：00～16：30

集合場所 四季の里正面入り口（あづま橋側）

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 デコ平湿原から百貫清水までのブナ林を散策し、林床に咲く、高原の花々を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：7月1日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

第184回自然観察会案内：高山（幕川温泉からスカイライン）ブナ林の紅葉観察会

日時：2022年9月25日（日）8：00～16：00

集合場所 四季の里正面入り口（あづま橋側）

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 幕川温泉からスカイラインに至るブナ林を散策し、秋の花々と高原の広葉樹類の紅葉を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：9月23日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

西吾妻登山道周辺保全誘導ロープ設置ボランティア実施報告

2022年6月14日(火)：西大巔一鞍部

13名の参加がありました。トレイルラン愛好者、山岳ガイド、デコ平スキー場、東北地方環境事務所、裏磐梯自然保護官事務所の職員が一堂に会しての作業となりました。また、遠く山形県飯豊町から参加していただいた方もいました。今回は、新たに西大巔から鞍部に至る崩壊地帯に誘導ロープを設置しました。このエリアは当会会員のみでは資材面や時間的余裕がなく、懸案になっていたエリアでした。今回は資材の調達もでき、参加者も健脚ぞろいで崩壊地帯の3か所にわたって誘導ロープを設置することができました。しかし、今年はこの10年間で一番の残雪量で樹林帯側の一部は設置ができませんでした。

2022年6月18日(土)：若女平分岐一西吾妻小屋

8名の参加がありました。一般参加者は3年連続の参加となるなすびさんに加え、西郷村、仙台、米沢からの参加でした。初めて参加者された方もいましたが、チームワークもうまく取れて、予定の作業を、余裕をもって終えることができました。しかし西吾妻小屋から弥兵衛平までのエリアの保全については課題が残されています。

一般公募方式に切り替えて3年目の作業を無事終え、今後に向けて更にステップアップもありうるかなと希望を感じたボランティア作業でした。なお、本年は「西吾妻山域登山道保全プロジェクト in 福島県・山形県」として登山アプリYAMAPの支援プロジェクトに採択され、全国の登山者から資材購入の支援を受けることになりました。



西大巔崩壊地帯に誘導ロープを設置

西吾妻登山道保全ボランティア作業の際のロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第121号 2022年6月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田